

XP500 TMAX

1991年 / 市販車

渋滞や駐車場不足が深刻なイタリアやフランスの都市部では、大型スクーターは上質なスーツや革靴を痛めることなく交通をリードできた。一方、欧州の中距離通勤では高速道路を120km/h以上の巡行可能なコミューターの登場が待ち望まれていた。

新たな高性能スクーターの開発では、既存の大型スクーターの機能性や快適性をさらに高級・上質にしたプレステージイメージに対し、圧倒的なパフォーマンスをボディ全体に漲らせたスーパースポーツイメージの2方向で検討され、後者が選定された。

専用設計の499cc 水冷4ストローク DOHC4バルブエンジンは、強度部材としフレームにマウントされ、独立したスイングアームの採用によりバネ下荷重が軽減、フロントフォークはオンロードスポーツモデル同様にトップブリッジを備えていた。

車体の軽重化と低重心化やマスの集中によって、それまでの大型スクーターに比べ、卓越した走行性能を得ることができた。

車体の中央でエンジンを抱え込みながら、前後輪のパワーをつなぐイメージの「ブーメラン」デザインは、現在の MAX シリーズへと継承されるヤマハの高性能大型スクーターに欠かせないアイデンティティ表現となっている。



COMMUNICATION
PLAZA